

正解は一つじゃない、自分たちで考えて解決する

課題解決型学習(PBL)



「枚方の魅力って何だろう?」「学校のバリアフリー化に向けて自分たちには何ができるだろうか?」答えが一つではない身近な課題に対して、子どもたちが自ら問いを立て、必要な情報を収集したり、解決に向けてデータを整理・分析したりしながら主体的に学びを進めます。誰かに与えられる学びではなく、自ら考えて解決策を提案する学びを通じて、変化のスピードが速い現代において、「実生活・実社会で生きて働く力」「未来を切り拓く力」を身につけます。

ヒラカタノタカラプロジェクト



「ひらかた」の文字の中には、「たから」が隠れています。地域の宝である子どもたちが、自ら考えて自分なりの答えを見つけ出すPBLの取り組みは「ヒラカタノタカラプロジェクト」と名付けて実施しています。市内企業とも連携しながら、「枚方の自然・文化・行事」を未来につなげていく願いを込めて、「子どもたち」と「枚方のまち」の未来への可能性を最大限に伸ばすことを目標に取り組んでいます。

タブレット活用率は全国トップレベル

最先端のICT教育

枚方市では、市立小中学校の児童・生徒に一人一台セルラーモデルのiPadを配備しています。Wi-Fi環境がなくてもインターネットにつながる教育環境は全国でも珍しく、いつでも・どこでも、「学びたい時に学ぶ」ことができます。「学びたい瞬間を逃さない」環境が、子どもたちの主体的に学ぶ力や、情報を取り扱う力、変化に適応する力などを育み、未来を育てる教育につながっています。また、生成AIやメタバース空間など、最先端技術の活用にも積極的にチャレンジし、これからの備えた体験を子どもたちに提供しています。



Check!

枚方市のタブレット活用率は全国トップレベル。未来を見据えた効果的なデジタル活用を進める一方で、実物を見る、触る、手書きで覚えるなどアナログの優位性にも着目しながら、最適な学習方法を選択して授業を実施しています。

